

## 実践報告

# 世界へ飛び出せ、グローバルきゅうちゃん！

## —ストーリーテラーに挑戦の巻—

茅野徑子<sup>1)</sup>・高橋桃子<sup>1)</sup>・小笠原明子<sup>1)</sup>・細川亜紀<sup>1)</sup>

CHINO Michiko TAKAHASHI Momoko OGASAWARA Akiko HOSOKAWA Aki

キーワード：きゅうちゃん・看図アプローチ協同学習・英作文指導・既習事項の確認・教科横断的指導

### 概要

第1筆者茅野は、これまで看図作文・看図アプローチに取り組み、国語科の作文指導をはじめとした多くの実践を重ねてきた。そして、課題に前向きに取り組む生徒たちを目の当たりにし、授業を組み立てるごとに大きな感動を経験することができている。本研究では、前報（茅野・時田 2021）の国語科作文指導でも用いた「きゅうちゃんカード」を活用し、英作文指導の授業を構成した。授業を行ったのは、茅野と、初めて看図アプローチ基盤型授業を実施する英語教員たちである。「きゅうちゃん」は様々なニーズに対応できる汎用性の高いキャラクター・ビジュアルテキストであることはこれまでの実践で確かめられていた。しかし今回、英作文指導においても、国語科作文指導と同様に、「きゅうちゃん」が自然に動き出し創造性豊かな授業を成立させることが示された。

### 1. 問題と目的

#### 構想のきっかけ

第一筆者茅野は国語科教員である。かねがね、茅野は、国語科以外の授業に看図アプローチを活用できないものかと考えていた。英語科、家庭科、食育・保育等における授業展開を、各専門教員との会話の中で模索していた。その中で、英語科教員の「英作文はパターンの中にあてはめていくタイプが多い」という言葉に引っ掛かりを覚えた。最初からパターンがあり、その中に単語を入れていけば、基本構文はできていくだろう。しかし、それで知識が定着して、日常的な力になっていくには少し弱いように思えた。そこで、茅野は「ものこと（原理）」でイメージを思い切り膨らませておいて、そのイメージを既習事項と関連づけて書き上げる英作文の授業を発想した（「ものこと

原理」についての説明は、鹿内 2018,p.4 参照）。

この発想を英語科教員に伝えた。はじめに「きゅうちゃん」を紹介した。英語教員たちの第一声は「かわいい！」であった。さらに「いろんな人に見える」「いろんなことが想像できる」「何かストーリーがありそう」と好意的な感想を述べてくれた。参考資料として茅野・時田（2021）にも目を通してもらった。英語科の指導にも応用可能であると打診したが、「やってみたいが、英語で成立するかどうか不安である」という反応であった。そこで、そのような教員でも不安なく実践できるようにするため、次のような予備的構想を行った。

#### 1年生授業への予備的構想

廊下の掲示コーナーに英語で書かれた人物紹介が貼られていた。生徒たちは実在する歌手やアニメ・漫画のキャラクター等から自分の好きな人

1) 松戸市立小金南中学校  
※全員、所属は授業実践時のものである。

物を選択し紹介する英作文を経験していた。各自、自分の好きな人物について「He(She) is…」 「I like…」等々と複数の英文を書いていた。このような短い英文を複数書くような授業は可能であると考えた。

### 2年生授業への予備的構想

ある日の授業で、絵を見てストーリーを思い浮かべ、その絵の内容について英語で質疑応答するという授業が行われていた。これは「見ること」を取り入れている教材であり、当然看図アプローチも活用できると考えた。生徒はペアになり、英語で質問・応答し合う。例えば一方の生徒が「What is she doing?」という質問を読んだら、もう一方の生徒は「She is …ing.」などと絵の内容をもとに答える。この活動に「ものこと原理」を取り入れれば、もう少し人数を増やしての協同学習も充実させることができそうであると考えた。

## II. 授業の実際

### II-1 授業者・学習者・実施時期等

授業者は、茅野・高橋・小笠原・細川の4名、学習者はA中学校2年生1クラス・1年生6クラスである（詳しい内訳は表1）。実施時期は2021年2月中旬から3月上旬にかけてである。年間の指導内容が終了しているタイミングで実施する運びとなった。はじめに茅野・高橋が2年生のクラスで授業を実施した（茅野T<sub>1</sub>・高橋T<sub>2</sub>）。その際、小笠原・細川には授業を参観してもらい、授業全体のイメージをつかんでもらった。茅野・高橋の授業は1コマ(45分)で実施した。小笠原・細川はそれぞれ1年生の3クラスを担当し、1コマ半～2コマの構成で授業を実施した。

表1 授業実施計画

年・組	人数	授業コマ数	授業者
2年4組	32	1	T <sub>1</sub> 茅野 T <sub>2</sub> 高橋
1年1組	28	1.5～2	小笠原
1年2組	28	1.5～2	
1年3組	27	1.5～2	
1年4組	26	1.5～2	細川
1年5組	26	1.5～2	
1年6組	27	1.5～2	

### II-2 授業目標

先述した予備的構想をもとに、第一筆者茅野が指導略案を作成した。授業の実施にあたり、次のような目標を設定した。

授業目標

- 看図アプローチを活用した英作文指導によって書くことの基礎力（単語・構文）を鍛えることができる。【見る・書く】
- 聞き手に伝わるような発表方法を工夫することができる。【話す・読む】
- 仲間の発表を注意深く聞き取り、考えを広げていくことができる。【聞く】
- 互いに認め合い、よりよい人間関係をつくっていくことができる。【協同性】

本実践では、「きゅうちゃんカード」をグループで読み解くことにより想像をふくらませ、パターン化された英作文ではない英作文を目指す。また、英作文中に既習事項が定着しているかを確認し、不足しているようならば復習を行い、強化していけるようにしていく。既習事項の復習・強化は国語科の授業実践では取り入れていなかった試みである。

さらに、高橋・小笠原・細川にとっては今回が初めての「看図アプローチ協同学習」の授業づくりである。この経験を通してそれぞれが今後の授業への手応えと可能性をもてるようにしたい。これは第1筆者茅野にとってもうひとつの大きな目標である。

### II-3 教材等

使用するワークシートは2枚である（ワークシートA・ワークシートB）。ワークシートAには茅野・時田（2021）実践と同様の「きゅうちゃんカード」が2種類印刷してある。ワークシートAを作成するにあたって「きゅうちゃん」カード（例えばワークシートA内の「88」「106」図のようなもの）を100種類以上用意した。その中から英作文を書く上で取り組みやすいものをとるという視点で高橋・小笠原・細川が選んでいった。多数の選択肢があったため、初の看図アプローチ



る。これは個人思考として行う。この「描かれていること」については日本語で記入してもらう。

個人思考が済んだら、きゅうちゃんカード 1 種類ずつ順番に、ラウンドロビンで「こと」内容を共有してもらおう（写真 1）。このとき、グループメンバーの発表で「いいな」と思ったことはどんどんメモしていくようあわせて指示する。学習者たちはこの活動により看図作文の授業と同様に「取材」を行い、おはなしを書いていくためのリソースを得ていく。このステップは 6 分程度で行った。

### 【ステップ 3】

#### 英作文に挑戦



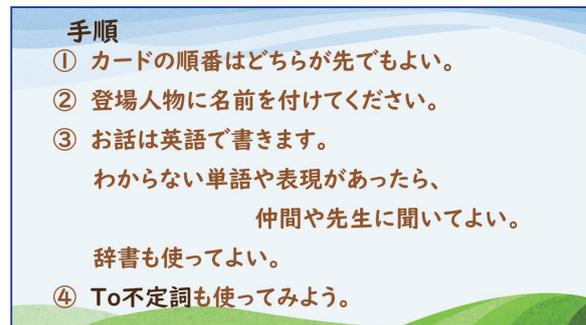
スライド 1

スライド 1 を呈示し「今日の目標は会話を入れたおはなしを英語で書こう！です」のように伝える。続けて、スライド 2 を呈示し次のように手順を説明する。

- ① きゅうちゃんカードの順番を決めてください。どちらが先でも良いです。
- ② 登場人物に名前をつけてください。
- ③ おはなしは英語で書きます。わからない単語や表現があったら、グループメンバーや英語教員である高橋に相談しても良いです。（辞書使用可。どうしてもわからない場合は部分的に日本語表記も可。）
- ④ バージョンアップチャレンジとして、既習事項を使ってみましょう。複数入れてみましょう。（この部分については高橋が説明を行った。スライド 3・写真 2 参照。）



写真 1 グループワークの様子 1



スライド 2



スライド 3



写真 2 グループワークの様子 2

なお、ステップ 3 は 22 分程度で行った。

【ステップ4】

相互評価・自己評価（ふりかえり）

以上の手順によって書かれた英作文をグループメンバーと交換しながら読み合い、互いにコメントを記入する。これを約 10 分で行った。

その後、自己評価として授業のふりかえりを書いてもらった。授業のふりかえりは数人に発表してもらった。ステップ4に要した時間は合計約15分である。

茅野・高橋授業で提出された英作文およびグループメンバーからのコメント、ふりかえりを以下に3例載せておく。

学習者1の英作文等

きゅうちゃんカード【103】



英作文

Rari and Rure are singing songs.  
 “Rari, do you like to sing songs?”  
 “Yes. I like to sing songs. How about you, Rure?”  
 “Me too. Pia, do you like music?”  
 “Yes. But I don’t like to sing songs. I like to play the piano.”  
 “Oh, you like to play the piano. We don’t play the piano. I want to listen to your piano.”

グループメンバーからのコメント

- 会話文が多くてすごく分かりやすい英文だと思っただ！！いいね
- 物語性があって読みやすかったです。
- ちゃんと会話になっていてとてもいい！！

学習者1の授業ふりかえり

自分で物語を考えるのが、いろいろな想像をふくらませることができたので楽しかった。今まで使った文法や単語を使って文を考えたので、良い復習にもなった。他の人の物語を読むと、いろいろな発想があっっておもしろかった。

学習者2の英作文等

きゅうちゃんカード【54】



英作文

“This tooth paste taste good. You also have to eat this, Kaede.”  
 “Actually, that is not tooth paste, Sakuta. That is hand soap”  
 “Ok, then you should eat this hand soap.”  
 “What flavor is that?”  
 “I think its strawberry.”  
 “Ewww. I hate strawberry. I’ll just use it for wash one’s hands.”

グループメンバーからのコメント

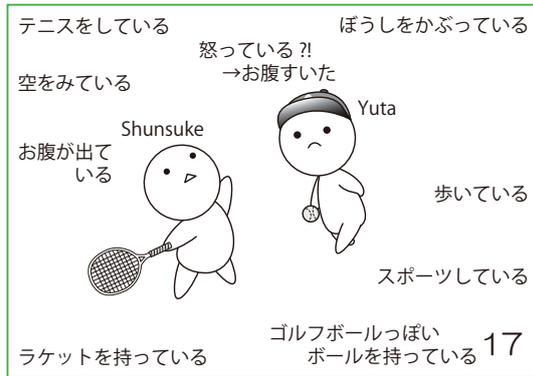
- 最初からすごく面白くて、せっけんという発想がすごい。笑
- イチゴ嫌いなんだね。

学習者2の授業ふりかえり

同じ絵なのにちがう物語になるのが面白いと思った。それぞれちがう発想で面白かった。いつもとちょっとちがう授業でおもしろかったー♡

学習者 3 の英作文等

きゅうちゃんカード【17】



英作文

“To play tennis is fun !” Shunsuke said.  
 But, “I don’t like to play tennis.” Yuta said.  
 Shunsuke: “Why ?”  
 Yuta: 「俺はテニスが苦手なんだ…」  
 Shunsuke: 「そしたら,」 “Let’s play tennis with me !”  
 Yuta: “Oh ! Thank you.” 「やってみるね !」  
 Shunsuke played tennis very hard.  
 Yuta: “I’m hungry. I want something to eat.”  
 Shunsuke: “Me too.”

グループメンバーからのコメント

・ to 不定詞をうまくつけててすごい！内容もおもしろい！

学習者 3 の授業ふりかえり

楽しく学ぶことができて良かったです。文章を書くことは難しいと思いました。日本語も入って良いとのことで書きやすかったです。楽しかったです！

II-5 茅野の授業ふりかえり

本実践では、先述した「授業目標」がすべて達成されているといえる。そのことは次のような学習者ふりかえりからもうかがえる。上に紹介した以外のふりかえりを 4 例あげる。授業目標の各項目にとくに関連する部分を太字と下線で示す。

学習者 4 の授業ふりかえり

最初の絵でいっぱいイメージが湧いて楽しかった。みんな書いているのが違って、いろんな視点からみられた。書き始めたら、英語がすすんで書けた。日本語がたびたびあったから少なくしていきたい。絵がかわいい。【見る・書く】

学習者 5 のふりかえり

今まで学んだ文法を用いて文を作り、それを読み合うという、今までにしたことのない勉強方法で楽しく学べた。またこのような機会があったらこういう授業をしていたみたいです。【話す・読む】

学習者 6 のふりかえり

楽しかった！日本語では出てくるのに、英語ではうまく言えなかったのでくやしかったです。すごく頭を使えたので楽しかったし、まわりの人の意見を聞いたのでおもしろかったです。もっと単語をふやして、今後はもっと長文を書けるようにがんばります!!【聞く】

学習者 7 のふりかえり

単に授業をするのではなく、考えながら自分でストーリーを書く、このような授業で想像力が鍛えられると思った。ふだんこのように頭を練る機会が無く、とてもいい授業だった。班の人と協力・想像・考察、この大事な3つを同時に使えたから本当に良かった。【協同性】

それぞれ【見る・書く】【話す・読む】【聞く】【協同性】の達成を充実感とともに示してくれている。この他にも、主体的に学びを深めようとする内容のもの、学びの実感を伝えてくれている内容のものが多くみられた。例えば次のようなものである。

## 学習者 8 のふりかえり

今まで使ってきた単語や文法で、物語の作れるのはすごく嬉しいし、楽しいなと思った。想像をふくらませるのが好きなので、一文一文書くごとに想像が広がっていくのが実感できて、もっと書きたいなと思った。授業以外でも空いている時に自分でまた英語の物語を書きたい。

## 学習者 9 のふりかえり

わからないところを自分でさがして見つけた単語は、けっこう覚えられるのがわかった。復習として確かめられてよかった。わかりやすく訂正してもらえてよかった。

本実践で特徴的だったのは、多くの学習者が「想像がふくらんだ」「またこういう授業をやりたい」「もっと書けるようになりたい」「自分で考えるのが楽しい」「みんなの文章をみるのが楽しい」といったポジティブな感想を書いていることである。学習者 8 は「授業以外でも空いている時に自分でまた英語の物語を書きたい」と述べているが、これは非常に高い主体性と学びへの意欲を示すものである。

また学習者 9 は、自分のわからないところを自分で見つけられるから復習も訂正も積極的に行えるということを述べている。どの教科であっても、学習者自身が「どこ(何)がわからないのか」わからないということは往々にしてあるのではないだろうか。見て読み解き、英作文を創作し、相互評価するという一連のプロセスの中で、自分がどこ(何)がわからないのかも見えてくる。学習者自身が自分で弱点を見つけ、それを克服していくという主体的な学びが自然に行われている。

想像する楽しさ、読み合う楽しさ、文法事項の復習・活用、英作文ができたことへの喜び、さらなる学びへの意欲等々、全ての学習者たちが、授業への高い満足度を示していた。もちろん、中

には英語が非常に苦手な学習者もいる。しかし、「きゅうちゃん」というビジュアルテキストを活用すること、協同学習を取り入れることにより、学びへの抵抗感を軽減することができた。このように苦手意識を軽減できることは教科を問わず指導上の大きなメリットである。

## II-6 高橋の授業ふりかえり

茅野と共に授業を行った、看图アプローチ基盤型授業初体験の高橋はどのような感想をもったのだろうか。授業後に提出されたふりかえりを以下に載せておく。

## 1. 国語の実践記録(茅野・時田 2021)を読んで

自分たちで story を考える助けとしてきゅうちゃんという動きのある人物がある。それだけで、無限に想像が広がっていくと思った。しかも考えやすいし、話し合いをしやすくなる。では、これを英語でできるのか？どのように進める？自分にできるのか？授業を進める具体的な想像が難しかった。いつかはやってみたい思いはあった。

## 2. 授業前の準備

## a. きゅうちゃん選び、組み合わせ(どのような意図で?)

・選ぶときに自分(教師)が場面設定や物語を想像できる 2 枚を選んだ。もちろん、同じ絵でも人によって場面も物語の内容も全く違い、こちらの想像を超えた英作文になっていて面白かった。

## b. どの既習事項を使うか、定着しているかどうかわかる、指導者の授業への評価・反省にも。

・中学生が英語を学んでいくうえで、いくつか難しいと感じる文法事項のうちの一つである「to 不定詞」にした。また、不定詞は用法が 3 つあるので、その中からであれば、1 文を入れることはさほど難しくはないと予想した。

・"To ~ is fun." のような例文も示したことで、英語を苦手とする生徒には物語の中に組み込みやすかったと思われる。もちろん、

具体的な例は示さなくてもできると思う。(普段の授業で例文を提示しているの。)今回は、2学期の既習事項だったので、復習の意味もあって例文を提示した。(生徒から、「あ～、あれね。」などの声も上がった。)

- ・実際、「To ~ is fun.」を使っている生徒も多く、funの部分もほかの形容詞が入るような提示の仕方考えたほうがよかったかもしれない。

### 3. 授業中の生徒の様子、観察・英作文の評価、先生の様子

- ・まず、きゅうちゃんをみて、「かわいい」。また、1年次できゅうちゃんを茅野先生から学んだ生徒は、一度やったことがあるので、ちょっと優越感。そして、茅野先生が「今日は英語でやります」の言葉に目が輝いていた。「英語で物語を作る」というと、ちょっと重たい空気になることのほうが多いのだが、きゅうちゃんと茅野先生の雰囲気のおかげで、生徒たちのやる気が見られた。
- ・カードの説明、気づいたことを10個以上書き込む際は、何を書いたらいいのか悩んでいる生徒もいたが、そのあとのラウンドロビンでお互いの書いたことをシェアすることで発想が広がっていったようだった。
- ・人物に名前を付けるのも興味深かった。それだけでも考えるのに頭の中がぐるぐるいろんな思いが駆け巡っていた。(クラスの仲間の名前や、AnkoとKinakoのように関連を考えられる名前もあった。)
- ・物語を書いているときも、わからない表現を教えあったり、和気あいあいとしながら、しかししっかりと書いていた。しかも、全員が英語を書いた。わからないところは辞書を使ってもいい、日本語でもいいので、少しハードルが下がり、「単語がわからないから書けない」と投げ出すことなく、書こうという姿勢が見られたことは、素晴らしいことであった。

### 4. 授業後の生徒の様子、観察・振り返り記入、英作文の評価

- ・英作文というと、「何を書けばいいの？何を書こう？」と難しく悩む生徒が多く、「わからない」「書けない」といった言葉も聞かれる。
- ・きゅうちゃんに関しては、「何を書こう？」でも前向きな感じであったので、授業後も英語で物語を書いたことに対する満足感があり、「文法を間違ってしまった」とか、「変な文になってしまった」のようなネガティブな言葉は聞かれなかった。どちらかといえば、英語で物語を書けたことがうれしかったようである。

#### [授業のふりかえり / 生徒のワークシートより]

(茅野の授業ふりかえりと重複するものは省略)

- ・自分でストーリーを考えるのは難しかったけど、想像するのはすごく楽しかった。また、同じ絵を見ている、人によって考えることが違い、面白かった。また、ちょっと前に習った文法を思い出すことができてよかった。
- ・今まで習った文法や単語を使って文を考えたので、良い復習にもなった。
- ・ほかの人の物語を読むと、いろいろな発想があって面白かった。
- ・思っていたより、1つの絵からたくさんのかたちを想像できた。
- ・前よりも発想力が豊かになった気がしたのでうれしかった。
- ・今まで会話文を作ってみると共有するということあまりなかったけれど、とても楽しかったです！みんなと共有できたので、相手がどうしているか書いてよかったです。
- ・いい感じに英語をいっぱい書けた。わからないところをみんなが考えてくれた。楽しかった。
- ・自分で内容を考えて、物語を書くのはすごく楽しかったし、友達と内容を共有したり、to

不定詞の使い方の復習や英文の作り方を学ぶことができた。

[英作文の評価]

・使用するべき不定詞に関しては、ほとんどの生徒が入れていた。不定詞を軸に物語の展開を考えているような内容もあった。不定詞の間違いはほぼなく、よく理解できていた。

・3人称単数現在のsのつけ忘れや、単数・複数の間違いなども多少はあるが、全体的に言いたいことがわかる内容であった。辞書を使ってもよいので、スペルミスは少なかった。

5. 授業者の感想・次への展望、他の英作文練習方法との比較、利点・効果

・今までの英作文の指導は、トピックと文法事項が決まっていた。今回はどんな物語でもOK。授業ではあるが、「○○をしなくてはいけない」という縛りが少ないので、楽しく、書きやすかったと思います。

・きゅうちゃんが愛くるしいのと、動作を考えやすいので書きやすく、文法事項も含みやすかったと思います。

・では、毎回きゅうちゃんて英作文をしたらよいのか？茅野先生は、それをお勧めしないのですよね。とすると、従来の英作文の指導もきゅうちゃんのように書きやすくする工夫をするべきである。では、どのように？(すごく悩んでいます。)例えば、日本の行事(ひな祭りや七夕など)も、ただ説明文を書くということではなく、場面設定をするといいいのでしょうか？考えていきたいと思います。

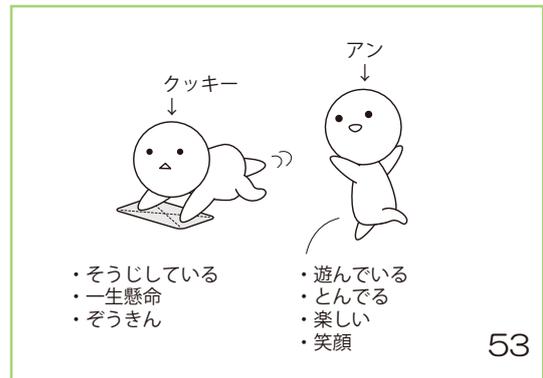
・生徒が意欲的に取り組んでいた姿が印象的でした。英語をもっと書きたいと思えた授業だったと思います。また、既習事項(文法)を入れることで、学んだことが生きた英語になりました。

III. 小笠原・細川の授業

授業目標及び教材・実施手順は茅野・高橋実践と同様である。このため、学習者の英作文等と授業者ふりかえりを載せておく。なお、小笠原・細川の実践では、バージョンアップチャレンジとして2学期末に習った「現在進行形」を文中に使用することを必須条件とした。

III-1 小笠原の授業結果(1年1・2・3組) 学習者10の英作文等

きゅうちゃんカード【53】【43】



英作文

ア アン “Hi, Cookie.”

クッキー “Oh, An. I am cleaning in my room hard. Can I help you ?”

ア アン “Sure.”

クッキー “What are you doing ?”

ア アン “Sorry, I am jumping fun.”

クッキー “Can I help you ?”

ア アン “No, I can't. Let's study Japanese together.”

クッキー “OK.”

ア アン “I make a story.”

クッキー “I read a book.  
This book is interesting.”  
ア     ン “My story is interesting too.”

グループメンバーからのコメント

- よみやすかったです。
- 物語が簡単に読めて、よかったです。
- 物語が面白かったです。
- 名前がかわいい！ジャンプからの国語の勉強が急すぎておもしろかったです。字がきれいでよみやすかったです。

学習者 10 の授業ふりかえり

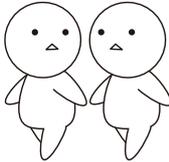
名前を決めるところから楽しかった。また、その子が何をしているか、その時に何を言うのかななどを想像できた。

学習者 11 の英作文等

きゅうちゃんカード 【88】 【106】

対称移動

カルボ     ラーナ

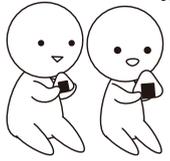


彼らは毛が存在しない生命体である

88

平行移動

おにぎりの大きさに差がある



彼らはおにぎりを持って見つめている

106

英作文 (ルビは学習者 11 が付したもの)

After the war.  
People were extinct, and new mankind were

生まれる  
born.

They are Karbo and Rana. They are new mankind.

They are walking.

They are looking for foods.

Looking for foods is very important.

Well, look at them. They found foods.

They are eating foods.

Then Karbo said “Can we breed this foods ?”

Rana said “I see. That’s good idea.”

They started breeding foods.

グループメンバーからのコメント

- 世界観がどくとくでおもしろかった！
- スケールがそうだいでおもしろかった。

学習者 11 の授業ふりかえり

絵を見ながらストーリーを考えるのがおもしろかったです。ですが、ストーリーを英語に直すのにとっても苦労したので、英語力の不足も感じられました。鑑賞では、Hさんのストーリーがおもしろかったです。内容がとてもわかりやすく、よいと思いました。

学習者 12 の英作文例

きゅうちゃんカード 【21】

ジョン

バイバイ

ボブ

ねてる



21

英作文

J “Bob !! Bob !! Let’s go to the park !”

B “No... I’m sleeping.”

Bob sleeping all this while.

J “Bob ! Let’s play soccer in the park !”

- B “No... I’m sleeping.”  
 Bob doesn’t get up.  
 J “Bob ! Let’s play game in the park !”  
 B “No... I’m sleeping.”  
 Bob is still sleeping.  
 J “Bob ! Let’s eat ice in the park !”  
 B “OK ! Let’s go the park !”  
 J “Oh…”

#### グループメンバーからのコメント

- ・ボブはオラと同じせいかくかもー!! ねるのっ  
 ていいよねー。
- ・自分もボブと同じせいかくだと思う。
- ・いっぱい書いてて良いと思う。
- ・わかりやすかった。長くて良かった。

#### 学習者 12 の授業ふりかえり

物語を考えるのはおもしろかったけど、英語にしないといけないのがむずかしかった。英文を書けるようにしたい!!

小笠原実践で出されたその他の学習者のふりかえりを以下に載せておく。(3 クラス分より抜粋)

- ・友だちに教えてもらって、いい作文ができました。
- ・1つの絵から5通りの物語ができて、おもしろかったです。
- ・それぞれにわくわく感がすごかったです。
- ・どう書くのか難しいと思ったけど実際書いてみると楽しく感じます。
- ・話の構成がすばらしく、相手に読みやすいと思わせる文だった。
- ・現在進行形がたくさん使われていて勉強になった。
- ・わからない文などは積極的に辞書で調べることができてよかった。
- ・ing形の使い方を覚えたので、今後にかかしていきたい。

- ・ストーリーを書くのに、グループの人がわかりやすくアドバイスしてくれてよかった。
- ・～だから、ここは～形というように考えながら作れてよかった。
- ・be動詞からワークをやり直そうと思った。
- ・英作文のいい復習になった。
- ・ものがたりを考えるのも大変だけど英語で表現がむずかしくて国語より何倍もむずかしかった。みんな発想がすごくて驚いた。
- ・今までまったく使った事のない英語を使ったり、知れたりできて面白かった。今まで習ったことを使えた。
- ・ストーリーを考えるのがとてもむずかしかったけれど、書き始めるとスラスラ書けた。
- ・他の人を見て個性的でおもしろかった。
- ・一つの絵で想像することがいっぱいあっておもしろかった。
- ・もっと単語を覚えて表現力をつけたい。
- ・知らない単語を使って発見があったり、それぞれのストーリーがあったり、おもしろかった。
- ・長く良いものを作ろうと思ってがんばった。そして他の人の作品もとてもおもしろかった。
- ・物語を考え、ing形を使うことができた。
- ・人によって物がちがっていておもしろかった。
- ・英語にするのが楽しかった。2年生になったらもっと上手に作りたい。
- ・自分で物語を書くのは初めてだったので、考えましたが、何とか書けたので、これから書く力をつけようと思う。
- ・わからない言葉などを辞書で調べるのが大変だった。
- ・why, becauseの文や現在進行形の文を作れた。

以上の結果を踏まえた小笠原の考察（ふりかえり）を次に紹介する。

### III-2 小笠原の授業ふりかえり

#### 1. 国語の実践記録（茅野・時田 2021）を読んで

- ・初めに「きゅうちゃんをやってみたい」という話を聞いて、国語の内容が英語でもできるのかと戸惑いを感じた。

- ・実践記録を読み、「きゅうちゃん」というキャラクターを使った自由作文であることがわかり、想像力を働かせながら、自由に英作文をさせることにも応用できると感じ、生徒たちがどのようなものを作り上げるのか興味がわいた。

#### 2. 指導略案を提示されて

- ・先に 2 年生で行われた授業の指導案をそのまま採用させていただいた。

- ・グループに提示するきゅうちゃんカードの選別も 2 年生で使ったものと同じものにさせていただいた。

- ・基本的に生徒が主体となり、自由に話を創作させるもので、英文で表現できるか一抹の不安があった。そのため、最初に絵カードで気づいたことを日本語で書く時間をなるべく充実させる必要があると感じた。

- ・英作文する際、2 学期末に習った「現在進行形」を必ず文中に使用することを課題とした。

- ・英文を書く際の助けとして、和英辞書を班に 2 冊ずつ配布することにする。

#### 3. 授業前の準備

##### (1) きゅうちゃん選び

- ・先の項目にも書いたように、既に 2 年生で実践したきゅうちゃんカードを使用させてもらった。ただ、その中からさらに抽出して、より 1 年生でも書きやすそうなものを選んだ。

##### (2) どの既習事項を使うか

- ・きゅうちゃんの絵カードは、見てすぐに動きを表現できそうなものを選んであった。1 学年は 2 学期末に現在進行形を習っており、ちょうどきゅうちゃんの絵カードを表現するのに適している文法項目なので、これを使うこと

とした。

#### 4. 授業中の生徒の様子

- ・オリジナルストーリーを作るという言葉聞いて、目を輝かせる生徒やきゅうちゃんの絵カードを見て、思い思いに想像力を膨らませている様子がうかがえた。

- ・絵を見て気づいたことを書き込む場面では、何を書いていいか戸惑う生徒もいたが、グループでその気づきを共有しあうことで書けなかった生徒もなにがしか書くことができたようだ。

- ・名前を考えるだけで、相当時間を使ってしまいう生徒がいた。英作文を書く時間との兼ね合いもあるので、そこだけに時間がかからないように促した。

- ・英作文に取り掛かる場面では、やはりクラス差や個人差が出ていたが、それでもなお自分で考えたストーリーを何とか英文にしようとする努力が見られた。

#### 5. 授業後の生徒の様子

- ・時間内に書き終わらず、最後まで完成させたがる生徒が多くいた。

- ・お互いに作った話の読みあいをした後の感想から、同じ絵でもそれぞれ違うストーリー作りをしていることに、驚きや発見をしている生徒が多くいた。

- ・ゼロから自分でオリジナルのストーリーを作るのは楽しい反面、それを英語にすることが難しいと感じる生徒が多かったのは当然であるが、それでも辞書や友達のを借りて最後まで作ろうという姿勢が見られたことがとてもよかった。

#### 6. 授業者の感想・次への展望

- ・今までの英作文練習の場合、決まった文法事項があり例文などで練習したのち、その例文に準じたものを作るパターンが多かった。今回は現在進行形を使うという縛りはあるものの、あとは自由に英作文をするというものだった。特に自分で考えたオリジナルストーリーということもあって、英語が苦手な生徒

でも、なんとかして作ろうとする前向きな姿勢が感じられた。

- ・オリジナルストーリーを作るために、知らない単語や文法を自ら調べようとする効果はとてもあり、今後もきゅうちゃんを使って授業をしてみたいと感じた。

- ・1年生ということもあり、ボキャブラリーや表現方法(文法)の知識不足のため作ったお話もやや稚拙なものが多かったのは仕方がないであろう。ただ、英語に直すにあたって、初めに考えた日本語の文章を英語で表現できる日本語に変換しなおすという作業が必要になってくる。ここは国語力がないとできない作業で、英語は国語力もないと力が伸びないということを改めて感じた。教科の相互作用をどのようにつなげていくかも一つの課題と感じた。

### III-3 細川の授業結果(1年4・5・6組)

細川の実践では、ワークシートBの「コメントや訂正アドバイスをもらおう。」欄にグループメンバー「への」コメントを書かせていた。そのため、細川実践のこの部分の記入例紹介は省略し、「英作文」と「授業のふりかえり」のみ載せておく。

#### 学習者 13 の英作文等

##### きゅうちゃんカード【17】

しよーくんはテニスをしようとしている。そこに神くんがくる。すると、しよーくんのじゃまを神くんがしてしまう。神くんは野球がしたいといいだす。テニスのラケットで野球のボールをうつという、変なゲームをする。

神くん  
野球しようぜ!!

しよーくん  
テニス

17

#### 英作文

One day. The boy wearing the cap, his name is Jin. Playing tennis his name is Sho.  
Sho likes tennis. He plays tennis very well. But

Jin doesn't likes tennis. Then, Jin asked Sho.  
"Hi, Sho. Let's play baseball. Can you play tennis?"

"Yes, I can. But you don't have a baseball racket."

Jin said "Oh, no." Jin after much thought.  
"Let's tennis racket play baseball."

Sho "really !? OK."

#### 学習者 13 の授業ふりかえり

日本語訳が上手く言えなかったので、少し悔しかったです。色々な単語が使えて良かった。他の皆も、会話文が使えていて、とてもわかりやすかったです。

#### 学習者 14 の英作文例

##### きゅうちゃんカード【21】

あしべ  
ラジオ体操

ごまちゃん  
土下座

笑顔でたおれている

21

#### 英作文

あしべ "What are you doing Goma?"

ごま "I am sleeping now. Good morning !!"

あしべ "Good morning !!"

We cried at the top of our voice.

Goma rubs one's sleepy eyes.

ごま "I'm very sleepy."

あしべ "Really?"

ごま "Good night."

あしべ "Please wait a minute."

ごま "?"

あしべ "Won't you come with us to the concert?"

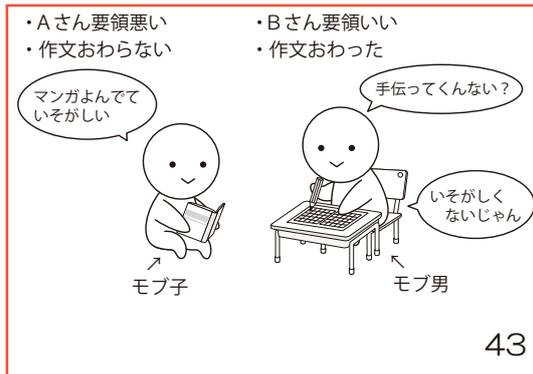
ごま "Sure."

### 学習者 14 の授業ふりかえり

上手く発音できなかった英語があった。まちがえてしまった。むずかしかった。ならったことのない単語つかいすぎた。

### 学習者 15 の英作文等

#### 選択したきゅうちゃんカード【43】



#### 英作文

男 “Hi. Can you help me, Mobuko?”

女 “No, I can't. I'm busy now. Sorry Mobuo.

What are you doing?”

男 “I'm doing my home work "sakubun".

I'm tired.”

女 “You can do it !”

男 “...What are you doing ...?”

女 “I'm reading a comic now. I'm busy.”

男 “You are not busy !”

#### 学習者 15 の授業ふりかえり

I さんの話がオリジナルでおもしろかったです。9 行でちゃんとお話つくれてよかったです。発表では発音を意しきして、はっきりとした声で話せました。

細川実践で出されたその他の学習者のふりかえりを以下に載せておく。(3 クラス分より抜粋)

- 全部英文で書くことができた。みんな会話が成り立っていた。
- 難しい単語も今回の授業で知ることができた。

- 班のみんな、文がしっかり成り立っていてすごいなあと思いました。
- 班のみんなの絵へのいろんな考えを聞くことができて楽しかった。
- 知らない単語も覚えられた。
- 文法や story などもきれいにまとまっていて、聞いていてとても面白かったです。
- もっと他の単語を勉強して長い文もつくってみたいです。
- Oくんのお話を聞いていると、簡単な文や単語でもここまで面白くなれることに気付きました。
- 辞書で調べたり、先生に聞いたりして、新しい単語を覚えられたし、文を組み立てられてよかったです。色々な話があっておもしろかったです。
- 自分と一緒に絵なのに、セリフが違ってきて面白かったです。班でどのように書けばよいかを協力して調べることができました。
- 内容もしっかりしている話をつくれるようになるのにも、知っている単語をふやしたい。
- 今までの ing 形を使えたりなど良い復習になったと思う。
- 自分ではわからなかった所をわかりやすく訂正してくれてうれしかった。ありがたかった。
- 自分が伝えたいことを 1 年で教わった文法でどれだけ伝えられるか実力が試された授業だったと思う。
- 時間が少なかったけど、終わらせられてよかった。会話文を棒読みになってしまったから、次からはそれを直して工夫したい。
- みんなしっかり発表していた。いい内容に出来た。
- 1 年の最初より、英文の作り方がうまくなったなと思った。
- 前よりもスラスラ文を考えることができた。

でも文法があやふやなところがあって、思うように文が書けなかった。もっと予習・復習してたくさん文を書けるようにしたいです。

- ・今までに習ったことをたくさん使うことができた。それぞれの文法を理解してできた。
- ・文を自分で考えて英文を書いていくことがとても難しかったが、とても楽しかったです。

以上の結果を踏まえた細川の考察(ふりかえり)を次に紹介する。

### III-4 細川の授業ふりかえり

#### 1. 国語の実践記録(茅野・時田 2021)を読んで

きゅうちゃんというキャラクターを用いた授業は、何もないところから発想を得るよりも感情や情景を想像しやすそうだと感じた。また、キャラクターに名前を付けることで感情移入しやすくアニメや漫画世代の生徒たちにおいては興味・関心をもつことができるのではないかと考えた。

#### 2. 指導略案を提示されて

展開がシンプルで目標が明確だと感じた。しかし、1つひとつの手順の説明や発問の仕方を自分自身が工夫して生徒を惹きつける方法を整理して考えなければと思った。

#### 3. 授業前の準備

1年生の実態と既習事項を考えると、きゅうちゃんの動きや状態を表せるカギとなる動詞や時制、文法事項がまだ不足していると考え、既習事項からも表せそうなきゅうちゃんの絵を選択した。また、1年生の内容できゅうちゃんに最も活用できそうな「現在進行形」を用いることで「今」の内容を表現できるか復習させたかった。2学期には、「現在進行形」を用いた英語劇を作成し、全員が役者となり演じたため、今回は他者(きゅうちゃん)の状況を説明したり、自由に物語を作成したりするという1段階上の課題を設定できてよかった。

#### 4. 授業中の生徒の様子

きゅうちゃんというキャラクターを使用することへの反応がよく、自由に名前を付けたり、想像力を働かせて物語を作ることを楽しんでいる生徒が多かった。同時に、自分が伝えたいことが既習事項からは表せなかったり、単語力が乏しく文がどんどん作れなかったりという葛藤をもった生徒もいた。書きたいという思いからいつもより多くの生徒が周りの仲間に質問したり、先生のところに質問に来たりということもあったので、よかったと思う。日本語でも新しい言葉、若者言葉を使った下書きをして、英語に変換している生徒もおり(「推し」「オタ芸」など)、そういった内容も英語で取り扱う難しさも感じた。

班内での発表については、よく聞いている生徒が大半であった。自分が書いた内容が班員に意味が通じず、最後に日本語で概要を説明することで理解できている部分も大きかった。

#### 5. 授業後の生徒の様子

「現在進行形」を1文以上入れた物語という設定をクリアしていた生徒は多かった。英語力の課題となるが、物語としては、話の流れを作るに至らず、状況を羅列して説明しているだけという生徒も多かった。接続詞を学習させ、今後はまとまった文を書く練習をさせる必要があると感じた。自由に作文させるといった内容に楽しさを感じた生徒が大半な一方で、まったく手付かずの生徒もおり、これは国語や学活の時間につながると思うが、日頃から他人の気持ちや状況について想像力を働かせ、書いたり話したりする機会を多く作っていきたいと思う。

#### 6. 授業者の感想・次への展望

生徒の反応がよく自由度の高いものから英語を書きたいという意欲が見られてよかったと思う。また、教え合いや辞書を活用することでさらなる「書きたい」が感じられた。

自由度の高い内容であるため、1年生にとっては学年末の総まとめとして扱う課題に適していると思った。2, 3年生では学期途中で行うことも可能であると感じる。また、特定の文法や接続詞を使用して書く、というようにある程度の拘束力をもった課題に変えることで、その単元や表現力の評価をピンポイントで行うことができると思う。しかし、同時に生徒の意欲が低下する可能性もあるように思う。

#### IV. 考察

2年生の実践は茅野・高橋（T<sub>1</sub>・T<sub>2</sub>）によるものであった。その後高橋ひとりでの授業も実施したが、結果に大きな違いはなかった。学習者たちの反応や、出来上がった英作文も、ふたりで実施したときと同様の結果が得られている。3クラスずつ分担した1年生の小笠原・細川実践においても、同様である。つまり、授業構成やすすめ方は一定のレベルで確立している。今回の授業プログラムを活用すれば、授業者や学習者が変わってもほとんど変わらぬ質の授業を提供できるだろう。これに授業者の独自性を加え工夫をすることで、さらに進化させることも可能であると考え。

国語科と英語科の指導方法は、同じ言語を扱う教科ではあるが、違いは大きい。国語科では、すでにある程度使える母国語をもとにして学びを積み上げていく。対して英語科は、アルファベットを使い様々な文法パターンにあてはめ、発音等を学びながら、徐々に慣れていく。英語は得意・不得意が分かれる教科でもある。英語が得意な生徒・英語が好きな生徒を増やしていくために、教師の工夫は不可欠である。高橋は自身のふりかえりの中で次のように述べている。

従来の英作文の指導もきゅうちゃんのように書きやすくする工夫をするべきである。(中略) 例えば、日本の行事(ひな祭りや七夕など)も、ただ説明文を書くということではなく、場面設定をするといいいのでしょうか？

小笠原は次のように述べている。

初めに考えた日本語の文章を英語で表現できる日本語に変換しなおすという作業が必要になってくる。ここは国語力がないとできない作業で、英語は国語力もないと力が伸びないということを改めて感じた。教科の相互作用をどのようにつなげていくかも一つの課題と感じた。

また、細川は次のように述べている。

自由に作文させるという内容に楽しさを感じた生徒が大半な一方で、まったく手付かずの生徒もおり、これは国語や学活の時間につながらぬと思うが、日頃から他人の気持ちや状況について想像力を働かせ、書いたり話したりする機会を多く作っていきたいと思う。

日本文化の題材を取り入れたり、国語力を伸ばしたり、人の気持ちや状況について想像力を働かせる機会をつくらせたり。英語科の学力を育成していくためには「教科横断的」な学びが必要であることが示されている。英語は英語、国語は国語、のようにその教科に凝り固まらずに柔軟に教材を作成していく必要がある。そのためにも、看図アプローチは有効である。「入力する(見る)→考える→出力する(表現する)」プロセスを経ることによって、与えられた条件から考え「発信」する力を育成できる。これは、国語科・英語科でなくても取り入れられるプロセスである。例えば、英語の教科書に「鳥獣戯画」が採用されている。このような作品をビジュアルテキストにしても、看図アプローチを活用することによって学習者たちから様々な言葉や表現を引き出していくことができる。

また、本論文で活用した「きゅうちゃん」も、さらなる応用が期待される。きゅうちゃんは、教育学・古典・法学・教科外活動等々、すでに多くの活用実践例が報告されている(例えば、石田他2019, 大村・池浦2020, 大山他2021, 鹿内他2021, 吉野他2019)。幼稚園児・保育園児への

音声言語指導（茅野・時田 2021, pp.3-4 で予備的実践例を紹介している）や、教育相談・カウンセリング等への活用も期待できる。

今回初めて看図アプローチ基盤型授業を実践した高橋・小笠原・細川は、はじめは不安な様子を示していた。しかし、生徒たちの目の色が変わっていく様や英語を学ぼうとする意欲的な態度を見て、自身も楽しく、充実した授業ができた実感していた。生徒たちは「見る・書く」「話す・読む」「聞く」「協同性」という授業目標に掲げた項目を達成し、3人の英語教員たちは「校内研修会・指導方法の研究会で提案・発信したい」と次へ向かう意欲を示している。第1筆者茅野は3人が「今後の授業への手応えと可能性をもてるようにしたい」と願っていた。この願いも叶えられたようである。授業者・学習者それぞれのふりかえりをみてわかるように、今回の授業実践に対する満足度はいずれも高いものであった。今後さらに創意工夫を加え、新たな指導形態として位置づけられるようにしていきたい。

#### 引用・参考文献

- 茅野徑子 2020 「肯定感を育て認め合う集団づくりを目指してー看図アプローチ協同学習による授業実践ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』2号 pp.3-11
- 茅野徑子・時田優奈 2021 「いつでも、どこでも、だれでも、だれとでもできる看図作文指導ー『きゅうちゃん、たぶんこうだったんじゃないか劇場』ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』6号 pp.3-15
- 石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチー絵本づくり授業実践の報告ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1号 pp.2-15
- 大村勲夫・池浦恵里 2020 「看図アプローチ協同学習を用いた古典読解単元の考察 その1ー『きゅうちゃん』を用いて『伊勢物語』第9段を内容把握するー」『全国看図アプローチ研

究会研究誌』4号 pp.14-23

- 大山和寿・山下雅佳実・石田ゆき・鹿内信善 2021 「看図アプローチを活用した法学における協同学習実践ー民法を中心とした保育に関する問題を題材としてー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』8号 pp.23-40
- 鹿内信善 2003 『やる気をひきだす看図作文の授業ー創造的〔読み書き〕の理論と実践ー』春風社
- 鹿内信善編著 2010 『看図作文指導要領ー「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスンー』溪水社
- 鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち・看図作文レパートリー』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方ー看図アプローチで育てる学びの力ー』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2018 「聴覚特別支援学校における看図アプローチを活用した授業づくり (I)ーF校に対する看図アプローチの紹介活動ー」『福岡女学院大学大学院紀要発達教育学』第5号 pp.1-7
- 鹿内信善・大山和寿・石田ゆき・山下雅佳実 2021 「看図アプローチの法学教育への活用ー『民法』授業開発のための予備的検討ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』7号 pp.19-32
- 吉野千春・田中伸子・石田ゆき・山下雅佳実 2019 「教科外活動での看図アプローチを活用した協同学習の実践と効果」『日本協同教育学会第16回大会要旨集録』pp.96-97

#### 謝辞

本稿執筆に際しお力添えを頂きました鹿内信善先生と石田ゆき先生に心より御礼申し上げます。

2021年7月12日 受付

2021年8月6日 査読終了受理